

以下のカテゴリー分類 1~5
の数字を入力して下さい。

タイトルは 35 文字までです。内容に沿った簡潔なタイトルにしてください。

カテゴリー分類: **3**

演題名: **肺炎後に褥瘡を発症した訪問リハビリテーションの実践**

カテゴリー分類表 1, 脳血管疾患系 2, 整形外科疾患系 3, 内部障害、廃用障害系
4, 難病、終末期、小児関連疾患系 5, 認知症、精神障害系

登録者名 = 参加者名です

登録者名:	日本 太郎	会員番号:	00000	-	000
所属名:	〇〇病院 訪問リハビリテーション科				

日本訪問リハ協会へ登録している所属名を入力

【事例紹介】Iさん、男性。86歳。多発脳出血、腰椎圧迫骨折のため、当院外来を受診していた。X年11月から2度の肺炎を発症し、X年12月末からは食事が摂れず点滴のために連日当院を受診していた。食事が摂れない状況が続き、Iさんは仙骨部と尾骨部に褥瘡を呈した。X+1年1月、当院へ再診をし、褥瘡の処置を目的に訪問看護

を、環境の評価および整備のうえ、在宅復帰に向けて全体のマネジメントを始め、妻の介助を要していた。

【経過】X+1年1月9日午後、訪問看護支援専門員、福祉用具業

（職種分類）に沿った心身機能・活動性向上を図ることを目指し、「立ち上がる」と「トイレを一人でできるようになりたい」、「通所介護を再開したい」であった。早速、トイレ内とベッドに床置き型の手すりを設置した。Iさんが普段使っていた椅子は横幅が500mmあるため姿勢が横に崩れやすく、360mmの高さに除圧クッションを使用すると仙骨座りの座位姿勢が解消されない恐れがあった。そのため、座位姿勢を良好に保ちつつ、立ち上がりをしやすくするために、電動昇降座椅子およびエアクッション（ロホクッション）を当日夕方に導入することとし、筆者も立ち会った。1月10日、訪問リハ2回目。生活動作を練習した。1月11日、ベッド、電動昇降座椅子からの立ち上がり、トイレ動作を練習し、安定していることを確認できたため、連日の訪問リハを終えた。1月15日、褥瘡は順調に改善し、Barthel Indexは肺炎を発症する前の60点に戻ったため訪問リハは終了になった。

【まとめ】肺炎後に褥瘡を発症した男性に医療保険による訪問リハを短期間実施した。多職種が協働してIさんに関わったことが功を奏して、褥瘡が改善し、ADLが向上した結果、Iさんと家族が望んでいた通所介護の利用を再開することができた。急性増悪した事例には速やかに多職種が連携して関わることで、本事例のように成果が出やすくなると思われる。今後もこのような訪問リハを実践していきたい。

本文には、【 】で小見出しを作成してください。職員に対して全体のマネジメントを開始し、在宅復帰を始める。介助機能分類)に沿った心身機能・活動性向上を図ることを目指し、「立ち上がる」と「トイレを一人でできるようになりたい」、「通所介護を再開したい」であった。早速、トイレ内とベッドに床置き型の手すりを設置した。Iさんが普段使っていた椅子は横幅が500mmあるため姿勢が横に崩れやすく、360mmの高さに除圧クッションを使用すると仙骨座りの座位姿勢が解消されない恐れがあった。そのため、座位姿勢を良好に保ちつつ、立ち上がりをしやすくするために、電動昇降座椅子およびエアクッション（ロホクッション）を当日夕方に導入することとし、筆者も立ち会った。1月10日、訪問リハ2回目。生活動作を練習した。1月11日、ベッド、電動昇降座椅子からの立ち上がり、トイレ動作を練習し、安定していることを確認できたため、連日の訪問リハを終えた。1月15日、褥瘡は順調に改善し、Barthel Indexは肺炎を発症する前の60点に戻ったため訪問リハは終了になった。